

文教常任委員会 行政視察報告書

文教常任委員会では、千代田区と旭川市を行政視察しました。
概要は以下のとおりです。

(実施期間) 令和8年5月25日～27日

(視察都市) 千代田区、旭川市

(視察内容) 千代田区

・ちよだリテラシー教育の取組状況について

旭川市

・いじめ防止対策旭川モデルの取組について

〔千代田区〕

千代田区では、ちよだリテラシー教育の取組状況について説明を受けた。

千代田区教育委員会では、SNSの普及により情報の発信・取得が容易になった現代において、児童・生徒が自分の考えをもち、情報を正しく判断する力が重要であると捉え、ちよだリテラシー教育を推進している。特にメディアリテラシーの育成を重視し、情報を読み解き、自己の信念に従って行動できる子どもを目指す姿として掲げている。育成する力として、善悪の判断、情報比較、事実と意見の区別、批判的思考、発信者の意図理解、信頼性を見極め、自分の考えの形成の七つを示している。実現に向けては、国語科を中心とした言語能力の育成、情報モラル教育の強化、AIなど新技術の体験・活用等を柱として取り組みを進めている。これまでに、学校での取組等の可視化、メディアリテラシーに関する資料の整理・作成、管理職研修、児童・生徒向けの実態調査などを実施している。

委員からは、SNSの利用に関しては、課題も多いと思うが児童・生徒や保護者に対してどのような教育・啓発を行っているのか、教員のICTスキルの差について、サポート体制はどのようなものがあるか等の質問が出された。



(千代田区での視察風景)

〔旭川市〕

旭川市では、いじめ防止対策旭川モデルの取組について説明を受けた。

旭川市では、令和3年3月に市立中学校の生徒に関する悲しい事件を受け、いじめ問題の再発防止を最重要課題として位置付け、令和5年4月には、市長部局の直下にいじめ防止対策推進部を新設し、いじめ防止に関する施策を一元的に所管する体制を整備した。同時に、市教育委員会の学校教育部内にいじめ対策担当を設置し、両部署の連携を強化するため、教育委員会職員をいじめ防止対策推進課に併任した。これにより、市長部局・教育委員会・学校が一体となって、いじめの未然防止、早期発見、重大化防止に取り組む旭川モデルがスタートした。

この体制では、相談窓口の拡充、学校からの全件報告、迅速な初動対応、専門職による継続支援などを実施し、困難ケースへの重点的な対応も行っている。また、市民との協働による見守り活動や啓発にも力を入れ、地域全体でいじめ防止に取り組む仕組みを構築している。

委員からは、令和7年度のいじめの認知件数が約7,000件とあるが、教職員の負担軽減は、どのように図っているのか、いじめの未然防止について、どのような取組を行っているのか等の質問が出された。



(旭川市での視察風景)